

処理を考える(30)



# 7月

## 図・表・写真などの処理 その4

### 6. 表を説明する時

表の形にも様々なものがあります。単純に縦に何項目、横に何項目という説明ですむものもありますが、多くはその都度工夫が必要です。ここでは、一般的な注意点をいくつか上げてみます。

- (1) 縦に読むのか、横に読むのか、これは重要な問題です。本来、表は縦にも横にも比較しながら見て行けるものですがテープではどちらかに決めて読むことになります。本文をよく読んで慎重に決めて下さい。
- (2) 項目がたくさんある時にははじめにその数を云い、項目に番号をつけて読むなどの工夫をします。どこまで続くのかわからないのは不安なものです。
- (3) 例えば一項目ずつ横に読んでいく時、項目名を毎回入れていくかどうか、難しい問題です。読み上げる数値に単位がついていて区別ができればいちいち項目を読まないで単位をつけて読む方法が考えられます。  
項目が縦・横・高さとか春夏秋冬などわかり易いものでは一々云わなくても良いと思います。

### 7. その他

1. 基本的な考え方でのべましたように録音図書製作には、まず第一に原本に忠実に著者の意をそこなうことなく音声化することが求められます。私たちの仕事は活字という視覚にうたえるメディアで流された情報を声という聴覚にうたえるメディアに変換する仕事だという云い方が出来ると思います。各メディアにはそれぞれ

れ特定の制約があり、ここに原本に忠実にということの大変な難しさがあると思います。

録音図書製作の過程ではテープは常に原本と一体です。けれど利用者の手元にはテープだけが届きます。テープだけで、完結した一冊の本になっていなければならないわけです。そしてそのテープが結果として著者の意をそこなうことなく原本の内容を忠実に伝えていなければならないということなのです。

## 8. 終わりに

ここまですべて読んで、

- ・テープ作りに対する基本的な考え方
- ・処理の方法は様々あること
- ・いくつかのパターンについて模範解答を求めても意味がないこと。

など、この問題の難しさが判っていただけでしょうか。

図も表も写真も様々で一つとして同じものはないとっていい位です。それらをその都度どのように扱っていくかこれは一に音声訳者の努力にかかっているのです。

利用者の立場で録音図書をきいてみることは誰にでも出来る経験です。是非一度、図も表もある本で経験してみても下さることをおすすめしたいと思います。

\*今回、連載しました「図・表・写真などの処理」を冊子にしました。(B5版、16頁) 希望者は清水までご連絡下さい。

## 先月の例文の処理例

### 練習問題1

※訂正 前回の練習問題1で「代子」となっていたところは「~~表~~代子」でした。お詫びして訂正させていただきます。

表記が問

題になっているところは、

「其の後」とか「・・・の為に」など古めかしい漢字が多かった。喜代子は「~~表~~代子」と書かれている。という所でしょう。

処理としては、

「其の後」とか「・・・の為に」など古めかしい漢字が多かった。「そのご」の「そ」と「ご」、「・・・のために」の「ため」が漢字。喜代子は「~~表~~代子」と書かれている。「きよこ」の「き」は「よろこぶという漢字の草書体」

# 今月の練習問題

※すべて表記が問題

## 練習問題1

とにかく、ワープロを使ってみた私は、そいつが突拍子もないあて字を出してくるので笑ってしまった。ために、「わはははははは」と打って漢字変換してみたら、ちょっと考えて（あの、ちょっと考えるかの如き間があくのもおかしい）「和は母は母」という漢字にしてきた。思わず、和は母は母、と笑うわけである。

そこで私は『ワープロ爺さん』という、そいつの面白さを利用した小説を書いたのだった。ギャグはほとんどOASYSがやってくれるので、実に楽であった。「このいえにすんどる」を、「個の家二寸\$」と書くなんて、作家でもちょっと思いつかないぞ。あの小説の中で爺さんがワープロのことを、ホープロと書いているところがあるが、あれは親指シフトのキーをよく見ればわかる通り、「わ」と「ほ」が同じキーだから起こるミスである。その辺、よーく読むと細かいのだ。

## 練習問題2

### 「価値感」か「価値観」か

「使命かん」や「価値かん」などの「かん」は「感」と書くか「観」と書くか迷う人が多いようです。

「感」は、安心感・意外感・罪悪感・正義感・満足感などのように使われ、そのようになっている感じ、気持ちを表しています。

また、「観」は人生観・世界観・女性観・文学観などのように使われ、その物事についての見方、考え方を表しています。

では「価値かん」はどちらかということ、「価値感」と書く人も多いようですが、「価値のあるなしについての見方、考え方」というほどの意味ですから、「価値観」とすべきでしょう。

「使命かん」は「課せられた任務などをどうしても果たさなくてはならないという気持ち」で、「使命感」です。

「無常かん」は「感」と「観」の双方があてはまり、その使われ方によって使い分けるのがよいでしょう。つまり、「友の突然の死に無常かんを覚える」のように、

「はかない感じ」の意味で使われるときは「無常感」「仏教思想における無常かん」のように「考え方」のニュアンスが強いときは「無常観」となります。

練習問題3

「油」と「脂」どう違う

「油」と「脂」の違いは常温で固体かどうかということ。「油」は燃えやすく常温で液体状のものを指し、「脂」は常温で固体状のもの、動物の脂肪を指します。

身のまわりの物でいえば、サラダオイルや液体整髪料などは「油」、ラードは「脂」です。

また、「油」も「脂」も比喩的にも使われます。「火に油を注ぐ」「油気のない髪」「脂汗」「脂ぎった顔」「脂足」「脂の乗った年ごろ」などがその用例です。

同じ「あぶら」でも、髪の場合は「油」、顔や足は「脂」というわけです。

二通りの読みがあって意味が異なるもの (58)

内面	ナイン 物事の内側。 ウチウチ 家族や内輪の人に見せる顔つきや態度。	裏地	ウラジ 衣服の裏につける布。 ウラチ 道路に接していない敷地 公道にも私道にも接していない土地。
大曲	オホカマ 河湖などの水が陸地に深く入り込んで淀んでいる所。 オホカマ 規模が大きい曲。	相乗	アイリ 車などに一緒に乗ること。転じて他の事業に参加すること。 ソウジヨウ 2ヶ以上の数を掛け合わせる事。
秋上	アキカミ 稲刈、取り入れの終わること。 アキカミ 稲作が不良のために秋になって米価の高くなること。	生年	セイネン 生まれた年。生まれてからの年数。 カドシ 果実がよくなる年。



ジャバラ式衝立好評です

先月号で紹介しましたPケースを使ったジャバラ式の衝立は好評です。Pケースはまだ充分余裕がありますので、希望者は清水まで申し出て下さい。点字用の郵送ケースに入れてご自宅まで送ります。費用は無料です。幅の広いセロテープは200円前後で購入出来ます。希望者には200円でセロテープ(幅4センチ、長さ50メートル)も一緒に付けてお送りします。



## 読みの基本

高梨欣也（元毎日放送アナウンサー）

『読む』ということは、目から入った字をただ単純に『音声化』するのではないことは、もうお分かりのはずですが、これが意外にうまく行かないのが『読み』の世界です。

では、どんな手順で『音声化』するのが理想なのでしょうか。

まず、文章ですから、意味をしっかりとることが大切です。読みの正確さとか上手さのようなものは、この意味のとりにかに第一歩があると思います。

『下読み』は、読みにくいところがないか、読めない字がないか「まあ、一応読みましょう」というだけのものではありません。内容全体の雰囲気までも感じとって欲しいのです。

意味をしっかりととったら、次は、その内容をどう正確に『音声化』するかにかかって来ます。読みの上手な人は、ほんとうは『読んでいる』のではなくて、もっとそこに入り込んで自分の意見や、主張、気持ち、あるいは実況のようなつもりで読んで（話して）いるのです。ただ、ほんとうの自分の文章ではありませんから、あまり長くは内容を正確に覚えておくことが出来ません。そこで、ある程度の長さで区切って下読みをし、本番を読むというやり方が効率的になるのです。（下読みで十分の時間が取れば、30分や1時間というものを一気に読むことも可能ですが・・・）

つまり、別の言い方をすれば、頭に入った内容を『書いてある活字を道しるべとして語る』とも言えるでしょう。

『活字を読む』作業で初心者が陥る最初の落とし穴は、正確に読もうとするあまり、句読点「。」、「、」を忠実に再現してしまうことです。『句読点』と言うくらいですから読むためのものでもあるのですが、しかしながら、皆さんが文章を書くときに、ほんとうにうまく読んでもらおうと考えながら『句読点』を打っているのでしょうか。（この文章は、かなり、読むことを意識して句読点を打っていますが・・・）中には、はじめから音声化するなど、まったく考えていないと思われる文章がいくつもあるのです。むしろこの方が当たり前かもしれません。

ですから、ほんとうにうまく読もうと思うなら、まず、「。」や「、」を、あまり意識しないでください。それと、よく一般的に言われるように、「、」は「。」の半分の長さをとる・・・などという算数のような計算もしないでください。読んでいる時の切れ目は、そんな単純なものではないからです。

意味のかたまり（センテンス）で読む

人は音声化されたものを聞くと、これが主語、これが述語などと考えながら聞いているわけではありません。「何がどうして、どうなった」という風に「センテンス」でまとめて頭に入れてゆきます。ですから、読む方も同じようにセンテンスでまとめて読んだ方が、人の頭にスムーズに入るのです。この結果、時として、非常に長

い文章を一気に読まなければならない時がでてきます。ここで「プレス」、一度になるべく多くの空気を吸うとか、瞬時に肺を空気で満たすとかの技術も必要になってくるのです。一杯吸って、これを無くなるまで声にして出し、また吸って出すという気楽な呼吸法で読むと、味気のない機械的な読みになってしまい、分かりにくかったり聞かせる読みにはなりません。ですから良い読みは、読み手にとって苦しかったり、トチリそうだったり、決して楽ではないのです。

### 違和感のない読み方

聖徳太子ならいざ知らず、普通の人はいくつものことを平行して考えることは不得手ですので、違和感のある読み方は、理解の妨げになります。読みの中で、なにか「変なもの」があると、聞き手はそれに気を取られてしまい、内容が理解しにくくなってしまいます。それにはまず、「発音」があります。この読み手の「サ」行の発音がへんだなあなどと気になったりすることがあります。他によくあるのが、「ラ」行。最近では若い人で、シャ、シュ、ショが、サ、ス、ソに、ジャ、ジュ、ジョが、ザ、ズ、ゾに、さらにチガツに聞こえる人がかなり居ます。もちろん、歴史的には発音も変化して来ましたが、これからも変わるでしょうが、読み手は出来るだけ保守的であって欲しいと思います。

加えて、共通語の発音上の二つの大きな特色、鼻濁音と母音の無性化も同じ意味で大切です。

また同様に、アクセントも共通の理解のために必要であるばかりでなく、聞き手との共通アクセントという約束の上で、違和感をなくそうとしているのです。

### 行間を読む

よく一般的な表現で『行間を読む』などといいますが、よい読みも、行間に流れる作者の気持ちを、センテンスとセンテンスとを繋いでゆく接着剤のようなものにして、著作全体をひとつにまとめあげることではないでしょうか。

### 読みの基本（その二）

聞き手は、読み手の微妙な表情を読み取ろうとするのです。

「。」のときの収まり加減、「、」のときの切れ具合、つぎのセンテンスまでのポーズの長さ、つぎのセンテンスの始めの音の高さやアタックの音の強弱、緩急、など、その他のいろいろの情報から、よりよく文章を理解する為に必要となるものを、一生懸命に探すのです。もちろん、これらの行為は頭で考えて行われるのではなく、自然に、しかも瞬時に処理しているのです。

このように、読み手がすべて計算ずくで読むのは大変ですが、前にもお話ししたように、下読みが理想的に行われた場合には、このような処理はとくに考えなくても自然に出来てしまうはずですが、一応、少しこの事を考えてみましょう。

センテンスの切れ目をどう読むかが、まず大切になってきます。これがほとんど言ってもいいかもしれません。

「、」や「。」のとき、特に「、」が意味を持っています。

切れ目の長さは、簡単に言えば、「なし」から、意味を持たない長い切れ目まで無

数にあります。それらは、長さによって意味のつながり、つまり、掛かり方の度合いが違ってきます。

掛かり方は、ポーズの長さだけではありません。前後のトーンの違いにもよります。同じ様な高さでは、掛かり方が強くなり、高低が多いほど意味はつながりにくくなります。よく、プレスをすると次のセンテンスの最初の部分が強く高くなってしまいうひとがいますが、これでは読みはブツギレになってしまいます。

逆に言いますと、平らに読めば、少々変なところでプレスをしてしまおうと、それほどおかしい読みにはならないとも言えます。

ですから、センテンスをなるべくひとまとめで読んだ方がよいということになります。でも、「お経」のようににはならないようにしてください。(切り切らず)

母音の長さにもよります。「、」の直前の母音が延びると意味は切れがちになります。

センテンスの頭のトーンやアタックの音も大切です。うまく行けば、気分の転換とか、時間の経過とか、感情の高まりとか、いろいろな変化をつけることができます。さあ、トライしてみましょう。

※今回は、盲人情報文化センターの98年度音訳講習会の講師をお願いしました元毎日放送アナウンサー 高梨欣也氏の原稿(講習会用)をそのまま『ろくおん通信』に掲載させて頂きました。

## パソコン関係資料の音訳勉強会に参加しませんか

毎月第3土曜日、3時～4時 盲人情報文化センター6F

近畿視情協パソコンチームは、パソコンに関する情報ならなんでも音訳してみよう！(できることなら・・・)という大胆な発想のもと日々(正確には毎月第3土曜日)活動しております。さて、今までの活動内容。初仕事はウィンドウズ95の入門マニュアル。パソコンは(近所の電器屋で)見たことがある、あるいはさわってみたこともある(パソコンショップで)というメンバーだけでやってみてしまいました。出来たものは案外好評で一何しろ初心者のためウィンドウズ95というわけですから一まさにケガの功名ですか！目下制作中のものはインターネットを始めてみたいナァ(パソコンがあれば)というメンバーでやっております。と、ここまで読んだあなた。少々不安になってきましたか。でも心配は御無用。我々はパソコンの情報を音訳するチームで、動かすわけではないのです。しかし、この読む(音にする)という作業がなかなか曲者。何しろそこはトワイライトゾーン。これといった決まりも読み方の約束もない。文中に登場する記号や表示には読み方(誰も音にしたことがない)すらないものもある程で。ありったけの脳細胞を寄せ集め、”あ～でも こ～でも”と口からでまかせ。デタラメから少々のほんとを紡ぎだせた時は、結構楽しい気分になって・・・これが忘れられない快感になります。これは余録ですが、覚えたパソコン用語を駆使して御主人やお子さんにハツタリをきかせるなんて楽しみも発見できるかも・・・ さアどうです。ここまで読んでしまったあなた。あなたはもう我々チームの一員です。あとは下記まで連絡するだけ。お待ちしております。

(文責 塩野)

連絡先 盲人情報文化センター 録音製作係 清水

**利用者から制作依頼を受けている原本**

- 『囚人同盟』 デニス・リーマン著 中井京子訳 <小説>
- 『三本の矢 上』 榊東行著 <小説>
- 『三本の矢 下』 榊東行著 <小説>
- 『密告』 真保裕一著 <小説>
- 『スロー・リバー』 ニコラ・グリフィス著 <小説>
- 『民法（5）契約総論』 第4版 遠藤浩他編 <法律>
- 『民法（6）契約各論』 第4版 遠藤浩他編 <法律>
- 『ケアマネジメント』 竹内孝仁著 <社会学>
- 『おなら大全』 ロミ&ジャン・フェクサス著 <民族学>
- 『正統の哲学 異端の思想』 中川八洋著 <西洋哲学> 350頁
- 『魂の幼児教育』 としくらえみ著 <教育> 100頁
- 『幼児のための人形劇』 フライヤフケ著 高橋弘子訳 <教育> 125頁
- 『ディスカバリー世界の真相への接近』 <宗教> B5判 308頁
- 『世界史B98年度用大学入試センター試験超対策問題集』

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

**今回引き受けて頂いた  
原本とグループ**

『免罪者』折原一著 <小説>	えくてもあ
『みんな夢の中 マイラスト・ソング 2』 久世光彦著	〃
『スペードの誘惑』 スザンナ・ムーア著	〃
『宇宙論の危機 新しい観測事実によれる現代宇宙論の最前線』	〃
『日本の名馬』 白井透著 <スポーツ>	〃
『関節痛のための運動』 デーバ・ソヘル、アサー・C・クライン著	〃
『ドリームボディ・ワーク』 アルド・ミゲル著	〃
『琉歌 句集』 安里青蛙著 <詩歌>	テンプライブライにしのみや
『ニッポニア ニッポン』 <詩歌>	〃
『競馬用語1000』 Studio フェラル著	ICCB
『IDNハンドブック 成分と作用がわかる本』 伊勢龍彦著	みなわ
『人生ニッコリ笑って生命がけ』 田辺昇一著	〃